

ふれあいニュース

【政府原子力被災者生活支援チームからのお知らせ】

今号の **ほっと・ニュース**

全国に避難されている方の交流の機会を創り、「ふるさとふたば」のきずなをつなぐことを目的とした『ふたばワールド 2014 in かわうち』が川内村にて開催されました。

→詳しくはP4をご覧ください。



檜葉遠隔技術開発センターの建設が開始されました

本年6月にまとめられた「福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会報告書」でも提言されている、福島第一原発の廃炉作業を進めるためにロボット等の実証試験を行う拠点（モックアップ試験施設）として、9月26日、檜葉町に「檜葉遠隔技術開発センター」の建設が開始されました。当センターの運用を通じて、一日も早い廃炉の実現と、得られた技術・ノウハウを活用した新たな産業の発進が期待されます。一部施設の運用は平成27年夏、本格運用は平成28年度からとなる予定です。

また、当センターでは国内外の幅広い専門分野の研究者が集まり、国際共同研究、人材育成、地域との共生等も期待されています。



＜資料提供：JAEA＞



暮らし関連2



「地域のためにできることをしたい」

暮らし関連3



「地元で培った技術を次世代に伝えていきたい」

NEWS等4

国道6号・県道36号において通行証の確認が不要になりました等



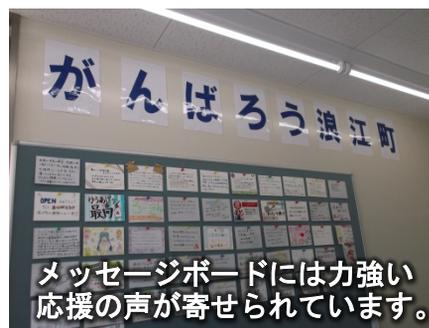
「地域のためにできることをしたい」

震災後、浪江町では全てのコンビニエンスストアが閉店していましたが、8月27日、同町で初めてコンビニエンスストアが再オープンしました。

「地域のためにできることをしたい」という震災直後からの社の方針があり、去年の夏から被災地で再開する店舗を探していました。浪江町役場からの再開要請もあり、この店舗の再開を決定しました。ライフラインの整備、従業員の確保等、再開における課題は多く、全て手探りで行うという大変な状況でした。現在は社員2名と派遣4名で、お客さんのご来店をお待ちしています。この店舗は当社の直轄ですが、将来的には地元の方に店長になっていただき、フランチャイズ店として、



オープニングセレモニーを実施し、テープカットを行いました。



メッセージボードには力強い応援の声が寄せられています。



復興に携われる仕事ができ、本当に良かったです。

東北ローソン支社福島支店
支店長補佐 高橋 武利さん(右)
ローソン浪江町役場前店
店長 陣内 健児さん(左)

より地域に近い形で店舗が運営できればと思います。お客さんに声をかけていただいた時には、特に店舗を再開して良かったと感じます。この店舗が地域のコミュニティーの場になってくれればと思います。



社員の山形さんは陣内店長とともに店を切り盛りしています。



店舗は国道6号沿いにあり、買い物に便利な立地です。



明るい雰囲気のお店でお客様をお待ちしています。

◆◆◆ 復興に向けた事業者からのメッセージ ◆◆◆



課題を一つずつ解決していくことが復興に繋がるものと考えます。



ローソン浪江町役場前店
福島県双葉郡浪江町大字幾世橋
字芋頭4-1
連絡先：0240-24-0037
営業時間：7:00~15:00



暮らし関連情報

◆◆^{えねい}合資会社江井铸造所(南相馬市)◆◆

「地元で培った技術を次世代に伝えていきたい」

当社はモーターなどの産業用機械の部品を製造する铸造業者で、約150年の歴史があります。小規模であるがゆえ、小回りの利くところを活かし、短納期での多品種少量生産が当社の強みです。

震災後は、郡山市の同業者のところで事業を続けていましたが、慣れ親しんだ工場で、作りたいものを作りたいという思いが募ってきました。平成24年4月に避難指示解除準備区域になったと同時に帰還の準備を始め、同年7月に操業を再開しました。また、避難時に取引先のケアを同業者に依頼したことをきっかけに、他の金属製造業者との連携を進めています。

現在の従業員は12名ですが、郡山市での経験を通じて、それぞれの仕事をより深く理解してくれたように思います。最近も若い人が入社してくれており、自分で考えながら仕事を学んで欲しいと思います。



型を作る作業にも様々なノウハウが凝縮されています。



型に鉄を注ぐ作業は一瞬ですが製品の善し悪しが決まります。



地元に戻った時には、これだ、ようやく自分の思ったとおりの仕事ができると思いました。

合資会社江井铸造所
管理部長 江井 敬彦さん

当社のものづくりの歴史と技を次世代に引き継いでいくのが私の使命だと考えています。そのためにも、将来的には後継者を見つけ、育成していきたいと思えます。



不要な箇所を取り除く作業はマスクを着け、安全にも十分配慮しています。



製品は重さが100gから30kgのものまで様々です。

◆◆◆ 復興に向けた事業者からのメッセージ ◆◆◆



将来を見据え、地元で他の事業者の方と連携していきたいと考えています。



合資会社 江井铸造所
福島県南相馬市小高区上浦字中村迫436
連絡先：0244-44-3222
URL：<http://www.enei-chuzosho.jp/>



国道6号・県道36号において通行証の確認が不要になりました

国道6号の双葉町～富岡町間及びこれに接続する県道36号の一部区間については、帰還困難区域内にあることから通行が制限されてきましたが、9月15日から運用が変更され、自動車の通行証の確認が不要となりました(注)。通行の利便性が向上することで、当該地域の復旧・復興の更なる加速化が期待されます。



注：自動二輪、原動機付二輪車、軽車両及び歩行者は引き続き、通行できません。

詳しくは、経済産業省のホームページをご覧ください。
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/kokudou6gou.pdf>

「ふたばワールド 2014 in かわうち」の開催について

9月28日、「一緒に創ろう・・・ふたばの明日！」をテーマに「ふたばワールド 2014 in かわうち」が川内小学校で開催され、昨年の倍となる約6,500人が来場しました。オープニングセレモニーには高木原子力災害現地対策本部長、浜田復興副大臣、小泉復興大臣政務官等が政府から出席しました。参加8町村からは、それぞれの復旧・復興への取組状況について発信するブースが開設されたほか、ふるさとの魅力や課題を実践的に学ぶ「ふるさと創造学」について、各町村の小中学校の児童・生徒により学習内容が発表されました。また、広野町・川内村・大熊町・葛尾村の子供たちによる伝統芸能も披露され、大いに盛り上がっていました。

参加8町村のブースの内容	
広野町	町の風景・国際シンポジウムの写真や“幸せな帰町”に向けたメッセージボードの展示、サマーフェスティバルのビデオ上映、町イメージキャラクター誕生の紹介
楢葉町	“笑顔の写真展”と題して集めた町民の笑顔や、仮設商店街の開店時の様子などを収めた復興についての写真展示、公式キャラクターのPRビデオの上映
富岡町	震災前から実施されていた「上手岡麓山神社の火祭り」や七五膳の献膳から火祭り、盆踊りまでの一連の行事の展示
川内村	復興の歩みの展示、観光PRビデオの上映、婦人会による炊き出し訓練、かえるキーホルダーのプレゼント
大熊町	全国から寄せられたヒマワリの種に町の復興への願いを込めたPRビデオの上映、町を上空から見られるモニターの設置、民話の紙芝居を映像で上映
双葉町	震災前の町の名所、双葉町の四季や祭りなどの写真、町民向け配付タブレットや老人クラブ手芸教室の作品の展示、町のPRビデオの上映
浪江町	震災前の風景、特産品、復興計画、浪江のこころ通信(町民の声)等の展示、復興についてのビデオ上映、タブレット操作体験、キャラクターの募集、B-1グランプリin郡山のPR
葛尾村	復興についての記録写真や村の情報を発信する機器(フォトフレーム)の展示、復興についてビデオの上映



「ふれあいニュースレター」バックナンバーのご案内

過去の「ふれあいニュースレター」につきましては、以下のアドレスよりご覧いただくことが可能です。ぜひご覧ください。
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html>